

頑張れ！幸一君！

登場人物

向井 幸一

向井 春

向井 千江

月島 さゆり

ナレーター（声）

下手にさゆり、手には手紙を持っていて、誰かを待っているようである。

オープニングテーマが終わる頃、スズメの鳴き声がある。（早朝の雰囲気）

今は早朝6時。幸一がさゆりの前を通り過ぎる。

歩くと同時に「ガチャン」「ヴィーン」とか音がする。

さゆり あ、向井さん。

幸一 どーも。

さゆり おはようございます。

幸一 おはようございます。

さゆり あなた人間ですか？

幸一 どうしてですか？

さゆり 歩くたびに機械音がするんですけど。

幸一 骨です。

さゆり はい？

幸一 骨の音です。僕、緊張すると関節が縮こまって、こういう音たてるんです。

さゆり 変わってるんですね。

幸一 人並みです。

さゆり あのことこれ。

と言って、手紙を見せる。

幸一 はい、読んでいただけました？

さゆり ええ、「明日、早朝6時、神社にて待つ。」…果たし状か何かですか？

幸一 違います!!

さゆり えっじゃあ…。

幸一 さゆりさん!!

さゆり はい?

幸一 大事な話があるんです。

さゆり なんでしょう?

幸一 さゆりさん。

さゆり はい。

幸一 ……いい天気ですねー。

さゆり そーですね。

幸一 お洗濯日和ですよ。

さゆり そーですねー。向井さんは自分でお洗濯するんですか?

幸一 いえ、家の人にやってもらってます。

さゆり そーなんですか。

幸一 はい。

2人、沈黙。

幸一 こんなお天気がいいとアレですね。

さゆり はい?

幸一 アレですよ。

さゆり はい。

幸一 晴々しますね。

さゆり ちょっと何言ってるのかわかりません。

幸一 ですよね。

2人、沈黙。

幸一 (半泣きで) しかし、いい天気ですよね!!

さゆり あの、向井さん。

幸一 はい?

さゆり 悪いんですけど、私、8時から友達と出かける約束してるんですよ。

幸一 はあ……あの、今度、電話します。

さゆり え?

幸一 いろいろ、話しましょう。

さゆり いろいろですか?

幸一 はい。

さゆり あの、電話しますって事を伝える為なんですか?

幸一 ……ええ、だって、電話しますって電話するのも変でしょう？

さゆり そうですね。わかりました。待ってます。

幸一 はい。

さゆり それじゃ。

さゆり、去ろうとする。幸一、その後ろ姿を見て、

幸一 あの、さゆりさん!!

さゆり はい？

幸一 あの…あの…。

さゆり 何でしょう？

幸一 ぼっ僕と!!僕と!!

さゆり はい。

幸一 ぼっ僕と、つつ付き合って下さい!!

さゆり 突つき合えばいいんですね。

さゆり、幸一の体を突つく。

さゆり どうぞ。

さゆり、腕を出す。幸一、おそるおそる、さゆりの腕を突つつく。

さゆり いいですか？

幸一 ありがとうございます!!

さゆり 失礼します。

幸一 お気をつけて。

さゆり、去って行く。

幸一 僕のバカ、バカ、バカ!!

幸一、頭を抱え騒ぐ。やがて舞台裏へ下がる。

そこは向井家のリビングである。ソファに座って泣く幸一。

もう一つのソファに千江が座っている。「サザエさん」のエンディングテーマ。

千江 あのださー。

幸一、泣いている。

千江　いい加減泣きやんだら？朝5時に家を出て、6時半くらいに帰って来たと思ったら
今までずーっと泣いてんだもん。

幸一　今何時？

千江　7時。うわっ。お兄ちゃん12時間も泣いてたの？体の水分無くなってんじゃない？
幸一　そうかな？

千江　ま、そのさゆりちゃんとやらの気持ちもわからんでもないけどね。

幸一　何が？

千江　天然の大ボケでもない限り、話しの用件なんて、察しがつくっての。

幸一　え？

千江　気付かないフリしてんだよその人。

幸一　どーして。

千江　告白されんのが怖かったからに決まってんじゃない。「付き合ってください」ってお
兄ちゃんに言われたんじゃないやねえ……。OKするわけ無いし。かと言って、断ったら刺
されそうだもんね。

幸一　刺さないよ。

千江　　そういう感じがするって事。

幸一　さゆりさんはそういう人じゃないよ。話の用件が分かかってごまかすなんて。

千江　　ま、フラれたお兄ちゃんを元気づける為にも……一杯やる？

幸一　　フラれた訳じゃないだろ。

千江　　いや、99%フラれたな。さ、飲も、飲も。

幸一　　飲みたいなら勝手に飲めばいいだろ。

千江　　すぐ拗ねる。お兄ちゃんの春はずーっと遠いんだからさ、自分から無理矢

　　呼び込んで春にしても、夏・秋通り越してすぐ冬になっちゃうんだから。

幸一　　何でそんな事が分かるんだよ。

千江　　そういうセリフは鏡を見てから言つてよ。

幸一、鏡を見て。

幸一　　……何か、変？

千江　　春はまだまだ遠いねえ。

幸一、そっぽを向いて拗ねる。春がドアから入って来る。(下手から)

春 ただいまー。

千江 おかえりー。

春 疲れたー。もう、残業でクタクタ。

春、幸一が落ち込んでるのを見つけて。

春 アレどうしたの？

千江 フラれたんだって。

春 フラれた!? 何、あんた、好きな人いたの。

幸一 ……まあね。

春 どんな子、どんな子？

幸一 まあ…何て言うか…かわいくて、優しくて。

春 照れてる、照れてる。

幸一 思いやりがあつて……。とにかくいい人だよ。

春 そのいい人に、あんたは振られたわけね。

千江 それが、かくかくしかじからしくてね。

春 はあ？朝の6時に神社に呼びだしたあ!? 幸一、あんた正気？

幸一 どうして？

春 告白するのに神社に呼んでどーすんのよ。呪いでもかけるわけ？

千江 さゆりちゃんって言うんだって。

春 さゆりちゃんねえ……天然だったりして。

千江 でも、天然でも話しの用件が告白って事くらい察しても良さそうなもんだと思わない？

春 まあねえ。

千江 お兄ちゃんだって一応、仮にも人間なんだからさ、ミミズやオケラじゃないんだからさ、勇気だして告白してんのに、それはないだろうって感じ。

春 まあねえ。

幸一 いや、さゆりさんだって、いろいろ考えてるんだよ。それに、他の用事があつたみたいだし、それをわざわざ僕なんかの為に……。

春 また言っ!!「僕なんか」って言葉使うなって何度言ったら分かるの？

幸一 ……だって……。

春 男でしょ？ビシツつとしなさいよ、まったく。ね、千江、肩、叩いて。

千江 えー。私だって部活で疲れてるのに。

幸一 僕がやる。

春 あんたはいいのよ。まだ聞きたいことがあるんだから。

千江、春の肩を叩く。

春 あー、そこそこ。：：んで、そのさゆりちゃんって、あんたと同じ高校なわけ？

幸一 （小さくうなづいて）同じクラス。

春 話とかするの？

幸一 まさかあ!!

春 だよー。

千江 ね、ねっ、一目惚れってやつ？

幸一、頭を掻いて照れる。

春 いーねー。若いつちゅうんわ。で、その子もてんの？

幸一 さあ。あんまりそういう噂は聞かないけど、でも多分もてると思うよ。

春 ……あんた、まさか、そのまんまの格好で行ったんじゃないでしょうね。

幸一 いきなり何？

春 いや、違うんじゃないんだけどね。

幸一 そうだけど。

春 おい!!

幸一 何？

春 ……こりやビビるはずだわ。話の用件、知らんぷりするのも頷けるね。

幸一 どうして。

春 どうしてって…そのセリフは鏡見てから言いなさい。

千江 あ、それさっきやった。

春 あんたねえ。そんな格好して何か思わない。

幸一 え？別に。

春 汚いなあ、とかダサいなあとか。

千江 髪型、整えようとかさ。

幸一 別に、これでいいと思うけど。

春・千 良くない!!

千江 お兄ちゃんのファッションはね、時代に逆行してんのよ。っていうか、そもそも、どの時代でもダサダサよね。

春 幸一、あんたオタクでもないでしょ。

幸一 え？

春 オタクでこの格好ならまだ許せるのよ。何か一つの事に熱中して他の事に気が回らないとか、他の事はどうでもいいって言うなら。それに比べて、あんたよ。

幸一 何？

春 熱中できる趣味があるわけじゃない。スポーツやってるわけじゃない。ましてや勉強

強できる訳じゃない。全てが並み以下の半端者でしょーが。

千江 ファッションセンス、ゼロ。ギャグセンス、ゼロ。恋愛経験、ゼロ。半端者っていうより

人間失格って感じよね。

幸一 ……そーだけどさ。

春・千 「そーだけどさ」じゃないでしょ、「そーだけどさ」じゃ!!

千江 怒んなさいよ!! こんだけボロクソに言われて腹立たないわけ!? 私なんて、自分

で言つて、自分に腹立ててんのよ。

幸一 器用な事するね。

千江 もてたいでしょ!!

幸一 え?

千江 本っ当の事言つて、もてたいっしょ!?

幸一 え、…別に……。

春・千 嘘付けー!!

千江 きゃー、嘘ー、信じらんない、サイテーって言う非難の悲鳴より。

春 きゃー、嘘ー、信じらんない、サイコーって言う黄色い悲鳴の方がいいでしょ!?

千江 ちゃんな男友達に蹴飛ばされて、パシられるより、

春 茶髪のねーちゃん、パシパシ殴つて言つこと聞かせてた方がいいっしょ。

春・千 そーでしょ!!

幸一 う…うん。そうだね。

千江 でしょ!? だったら変わらなきゃ。

幸一 え?

春 ……幸一、あんた、さゆりちゃんのこと諦めんの?

幸一 え?

春 事実上、告白してないんでしょ? だったらまだ可能性はあるじゃない。さゆりちやんがスーパー天然大ボケ人間かもしれないでしょ? 本当に話の用件が分かってないかもしれないじゃない。

幸一 ……うん。

千江 だから、変わらなきゃ。

幸一 え?

千江 春姉えと千江で協力してあげる。

幸一 はい?

千江 変身するのよ。蛹(さなぎ)が蝶になるように!!

春 蛾のような気もするけどね。

千江 春姉え!!

春 冗談よ。冗談。いい? あんた今日、たった今から生まれ変わるのよ!! もてる男に

なる為に努力するのよ!!

幸一
は？

春
声だしてこ、声!!

千江
おうよ!!

幸一
ちよつと!!

千江
お兄ちゃんもてる男になるために頑張るぞ!!

春・千
ミュージック、スタート!!

音楽がかかる。三人、エアロビダンス。うまくのれない幸一。

音楽がフェードアウトし、幸一、ハアハア言う。

春
あんた、本当にダサイね。

千江
いきなりエアロビはきついんじゃない？

春
小学校の運動会の時、準備体操で足った位だもんね。この子。

千江
だからさ、外見よりも中身からって感じ？

幸一
・・・中身って？

春
あのさ、あんたみたいな格好しても、もてる奴はもてるわけ。分かる？

幸一
え・・・いや。

春 心よ、心。女心って奴よ。

幸一 ああ。

春 「ああ」じゃないわよ。一番大切なことなんだからよく覚えておくのよ。

幸一 はい。

春 女心って言ってもね。顔が人それぞれ違うように、心も違うのよ。男だってそうでしょう？

幸一 うん。

春 ロマンチックな女もいれば、超現実主義な女もいる訳。それを男は瞬時に理解して、その女にあった付き合い方をするわけよ。

幸一 なるほど。

千江 つて口で言うのは簡単なんだけどね。女」の人とあまり話したことのないお兄ちゃんに女心を理解しろっつー方が無理なんじゃない？

春 そーよねー。

幸一 春姉とか千江と話してるじゃん。

春 兄弟と赤の他人とはまた違うわよ。

千江 家族だから許せるって所あるじゃん。お兄ちゃんが他人だったら、私、絶対口聞かないよ。

春 私だって半径5メートル以内に近付きたくないね。

千江　でも、家族つてだけでお兄ちゃんの後のお風呂にも入れちゃうんだよね。

春・千　不思議よねー。

幸一　言いたい事言ってるね。

千江　そうだ!! いい事思いついた!!

春　え? 何?

千江　この際だからさ、お兄ちゃん自身が女になってみればいいのよ!!

幸一　え!?

春　いいかもしれない!!

千江　その方が手っ取り早いでしょ? いろんな女の人と話すより自分の中で女心を勉強

した方が確実に身に付くって!!

春　そうよ、そうしなさいよ!!

幸一　だって!!

春　装するだけでいいんだからさ!!

幸一　・・・女装?

千江　スカートはいて、髪の毛、かわいく結って。

春　千江、服はあんたの貸しなさいよ?

千江　えー!! 何でよ、嫌だよ私。汚いもん!!

春　私だって嫌よ。こんな小汚いヘロヘロバツタに、服貸すなんて!!

幸一 さつきと言つてゐる事違つじゃん!! 家族なら平気なんですよ?

千江 平気だけど服はちよつとね……。一着一着に大切な思い出があるし。

春 これも女心の一つよね。はい、一つ勉強になりましたね、幸一君。

幸一 じゃ、どうすんの。

千江 お母さんのでいいんじゃないの? 年の割に結構今風の持つてたでしょ?

春 よし、じゃあ明日はそれ着て二人で渋谷行くか!!

幸一 ちよつと、外に出んの!?

春 当たり前でしょ? 何の為の女装よ。

幸一 だって、服着てスカートはいて、それだけなんじゃ!!

千江 それで女心の何が分かるって言うのよ!!

幸一 いや、だから、女装して鏡見て「え? これが私!」とかつて!!

千江 それじゃ変態じゃない!!

幸一 女装して外出する方がもつと変態だろうが!!

春 何言つてんのよ、これは特訓よ!! 明日への光をつかむための特訓なのよ!!

千江 これはお兄ちゃんの為なんだからね!!

幸一 僕はやだよ!

春 明日は渋谷じゃー!!

千江 渋谷じゃー!!

幸一 僕はすえつたいヤダからね!!

春、千江、はしゃいでポーズ。3人ストップモーション
暗転。

次の日、渋谷。

下手の花道から春と千江がおしゃれな格好をして台詞を言いながら入ってくる。

春 んー、やっぱりシャバはいいわね。

千江 ちよつと…。

春 でも、本当。プライベートで来るのは久しぶりなのよ。取引先の人と一緒にでしょ。
氣い抜けなくてね。

千江 接待つてやつ。

春 そー。

千江 でも取引先の人がカツチョエー人ならオツケーって？

春 そー。そー。

千江 で、その取引先って？

春 デブ・ハゲ・オジン。

千江 最悪。

春 でしょ。

千江 そんな会社、辞めちゃえば？

春 そーもいかないのよ。

千江 何で？

春 いろいろあつてね。

千江 大変なんだ。

春 大変なのよ……って暗くなってどーすんのよ。男よ男。ナンパ!! 張り切って、

いこー!! そういえば幸一は？

千江 あれ？ さっきまで私達の後ろ。ヒタリくっついてたのに。

2人、幸一を探す。

と、千江が向こうの方にいる幸一を見つける。

千江 あ、いたいた、お兄ちゃん!! こっち、こっちー!!

幸一 ……おい。

春 全く何やってんのよ、グズね。

幸一 こんな格好してるのに、「お兄ちゃん」って呼ばないでくれるかなあ。

春 「くれるかなあ」じゃなくて、きちんと女言葉、使いなさいよ。

幸一 まさか、本当に連れて来させられると思わなかった。

春 あんたの為にしょ？どう？興奮する？

幸一 するか!!……うたく。

幸一、ケツを搔く。

千江 ケツを搔くな、ケツを。ピシッとしなさいよね。家で教えたでしょ、モデル立ち。

幸一、ピシッとモデル立ち。腰に手を当てている。

千江 様になってんのよね。今、この手、自然に出たよね。

春 うん。素質あるんじゃない？

千江 いい、お兄ちゃん、今日はナンパされに来たんだからね。ちゃんとやってよ。

幸一 ナンパ……されに来た？

千江 そう。

春 とりあえず、どうする？三人固まっとく？

千江 その方がいいんじゃない？お兄ちゃんも慣れてないだろうし。ね？

幸一 慣れてるわけないだろ。

春 いい？言われた通りにしてりや必ず向こうの方から声かけてくるから、分かったわね？

幸一 う、うん。

春 基本はモデル立ちよ。……せーの！！

春の合図で三人ポーズをとる。 間。

千江 ……誰も声かけてこないね。

春 まだ、始めたばかりでしょ。

千江 でも、変な目で見られてるよ。

春 そっかしら？

幸一 そりやそうだろ、道端でこんなポーズとってる三人組を誰がナンパするわけ？

春 じゃ、どうすりゃいいのよ。

千江 自然でいいんだって。こうして、くだらない事しゃべってりゃいいと思うよ。

春 だって、それじゃアピール度がなideしょ。

幸一 アピールだったのか……。

千江 あ、ねえ、あそこの三人組、こっち見てるよ。

春 え、どこ？

千江 ほら、ビルの出入り口の所に立ってる三人組。

春 まだ、ガキじゃない。

千江 春姉にとつてはね。

春 殴るわよ。

幸一 あ、こっち来た。

三人ちよつとソワソワしている。

男三人組、話しかけてきた。

春 何ぞますでござんす？

男たち、去つて行く。

春 あ、あら？…どうしたのかしら？

千江 「どうしたのかしら」って、そりゃ、行っちゃうに決まってるでしょ。

幸一 「何ぞますでござんす」って何？

春 軽いくすりよ。

千江 あ、他の男達が来るよ。分かってるね、春姉。
春 大丈夫だって。

三人、男に気付かないフリ。男三人組、話しかけて来る。

春 はい？え？ええ、そうよ。

千江 姉妹なんです。三姉妹。

春 私が長女で、この子が次女。

千江 で、私が三女。え？千江でーす。

春 春よ。

幸一 え？あ、その…幸一です。

春、幸一の頭をベシツ!!

春 あの、幸子って言うんです。

幸一 は？

千江 変わってるでしょ？

幸一 幸子？

春 何よ、何か文句ある？

幸一 ……無いけど……。え？

千江 は？

幸一 私？…私が？

春 何で何で？

男達の目当ては幸一だったらしい。幸一、強引に連れて行かれる。
春、千江「ちよつと!!」「何で!?!」「待たんかい!!」とかいう。
去つていく幸一。ポツンと取り残され見つめ合う春&千江
やがて幸一が帰つて来る。

幸一 いやー。参つた。逃げて来たよ。

春 おう、こら!!

幸一 え？

千江 どーゆー事よ!!

幸一 何が？

千江 何でお兄ちゃん目当てにナンパしに来るわけ、あの男達!!

春 しかも、しゃあしゃあと、あんただけ連れていくとは何事よ!!

幸一 ぼ、僕に言われても…。

千江 ここに、ピッチピッチの女がいるのよ!?

春 ここに成熟した女がいるのよ!?

春・千 なのに、何でこんなアミダバアみたいな女を選ぶわけ!?

幸一 いや、その…ほら、たまたまあの人達がゲテモノ好きだったんだよ。

と、下手から、さゆりが歩いてくる。

幸一 あ、さ、さゆりさん!!

さゆり ひっ!!

さゆり、驚く。

そして幸一の姿を上から下へ、下から上へじっくり見て、妙な目をする。
そして去っていく。

幸一 あ、あれ?

千江 お兄ちゃん…自分がどんな格好してるか忘れてるでしょ?

幸一 ……ああ!!

春　今のが、さゆりさんね。……ま、普通じゃない。

千江　ただでさえ、遠く険しい道のりだったのにこれでゴールが見えなくなっちゃたわね
幸一　死んでしまいたい。

春　ま、罰が当たったのね。

幸一　罰って、僕、何にも悪い事してないんだけど……。

春　さ、帰りましょ。

千江　はあゝい。

春　行くわよ。

幸一　……うん。

春・千江、気分良さそうに下手へ去っていく。

幸一、さゆりの去っていった上手をジッとみてやがて、

幸一　えゝん。

と、泣きながら下手へ去っていく。

舞台は向井家リビング。

春 いやゝ、ちかれた、ちかれた。

千江 でも、たまには兄弟で出かけるのも悪くないね。

春 まあね。あれ？幸一は？

千江 今、着替えてる。

春 ずっとそのままでもいいのに。

千江 癖になりそうだからこの辺で止めとくつて。

春 何なんだ、あいつは。

千江 ……で、次なる作戦は？

春 そうねー。あれじゃ、どこから手を着けたらいいものか…。

千江 何であんななんちゃつたんだろ。

春 内気だからじゃない？

千江 それだけ？

春 それを誰もフォローしなかったのよ。友達作りなさいとか何々しなさいとか。

千江 甘やかしすぎたつて事？

春 甘えてるんだつたら、千江だつて同じでしょ？

千江 でも私、あんなんじゃないよ。何でお兄ちゃんだけ。

春 だから言ったでしょ。内気だつて。内気って言うのはね、関心を持たないつて事な

の。他人に対しても、自分に対しても幸一はどうでもいいと思つてるのよ。だから

人が自分の事、どう思っているかどう言っているかどう自分がどんな格好をしているかとOKなわけ。

千江 何か寂しいね、そういう生き方って。でも、さゆりさんには好かれたいわけでしょ？

春 そこよ。幸一にとつて、初めて第三者として意識する人が現れたのよ。これは真人間になるチャンスだわ。

千江 何か妖怪みたいだね。

春 近いものあるでしょ？

千江 あるある。でもそつかあ、春姉えも春姉えなりにお兄ちゃんの事、心配してるんだ。まあね。あーゆー子は、家族が暖かい目で見てあげないと。

千江 暖かい目？

春 そう。

千江 何かいいね、そういうの。

春 でしょ？

千江 暖かい目か……うん、分かった。……お兄ちゃん!!

千江、幸一を呼ぶ。

幸一、また凄まじい格好をして入ってくる。石になる春&千江

幸一　ん？呼んだ？

千江　：私、無理みたい。

幸一　何が？

春　私が馬鹿だった。：あんな何なの、その世紀末ファッションは？

幸一　ダメ？

千江　全っ然ダメ。

春　もう、切れた。ちょっとあんな眼鏡取りなさいよ。

幸一　え、ちよっと!!

春　千江、部屋からブラシとムース、持ってきて。

千江　うん。

春　あ、あと、お父さんの服も。

千江　なるだけ、若者向けのやつでしょ。

春　そ。

幸一　：何？

春　外見からいこつ。

幸一　女心は？

春　もぅいい。

幸一 もういいって!?

春 暗示をかけましょう。毎日きちんとした格好をして、鏡の前立って「俺ってかっこいい!!」って一日三回は心の中で唱えるのよ、いいわね!!

幸一 ナルシーは嫌われると思う。

春 あんたはその位で丁度いいの!!

千江 はい、持ってきたよ。

春 あんたも協力しなさいよ。

千江 任して。

幸一 あ、あのさ...

春・千 何?

幸一 よろしくお願いします。

千江、いろいろ持ってくる。

以下、エチュードで作る(幸一のヘアースタイルで遊ぶなりする)

千江 とりあえず、こんなもんでない?

春 よし。幸一、これに着替えといで。

幸一 これ?

千江　そー。

幸一　ダサくない？

春　あんたが言う？

幸一、奥の部屋へ。

千江　結構おもしろいね。何かスタイリストみたいで。

春　言えてる。さて、格好がまともになったところで次は…。

千江　でもさ、まともになったって言ったって、今、私達がコーディネートした訳で、明日になったらまた同じじゃん？

春　そーか、センスよ。

千江　センス？

春　ファッションセンスとか、そういうセンス。おっされーなセンスを身につけさせるのよ。

千江　あ、それいいよ。

幸一　……これでいいの？

幸一、出て来る。

千江 ま、そんなもんか。何とか見れる。で、次はどうする？

春 次は……会話力かな。会話でムードつくんのよ。その気にさせんのよ!! 話のつま
んない男に女がついてくる訳ないでしょ? いい? たかが会話、されど会話なんだか
らね!!

幸一 はあ……。

春 よし、じゃ設定決めるわよ。まずここはお洒落なバー。カウンターに一人、いい女
がいる。女役は……千江、あんたやんな。

千江 ほーい。

春 そこに一人の男が現れる。いい? まず、私が手本見せるから、よく見てなさい
よ。

幸一 うん。

春、千江、位置に着く。

春、歩いてくる。バーテンダーに(幸一に)

春 トム・コリンズ

幸一 何やってんの?

春 カクテル頼んでんのよ!! あんたバーテンやってよ、やりながら見てられるでしょ。
幸一 うん。

幸一 も位置に到着く。初めから。春が歩いてくる。

春 トム・コリンズ
幸一 よろこんで!

幸一、カクテルを作る。

千江、軽くため息をつく。それを見た春、千江に話しかける。

春 お一人ですか?

千江 ……ええ。

春 隣……空いてますか?

千江 ええ。

春 私がそこに座っても?

千江 構いませんよ。

春 ありがとうございます。

春、移動。カクテルが出来る。

幸一　　へイ、お待ち!!

春、幸一を叩く。

春　　コラッ!! 寿司屋じゃないんだからさ。お洒落なバー、分かる?

幸一　　::トム・コリンズです。

春　　どうぞ。

春、カクテルを千江に渡す。

春　　もう一つ同じ物を。

幸一　　かしこまりました。

千江　　どうもありがとう。私、このカクテル好きなんです。

春　　だと思っただ。

千江　　どうして分かったんですか?

春 君の瞳を見れば何だって分かりますよ。

千江 キザなセリフね。

春 フツ、そうかい？でもね、言わせたのは君のその美しささ。

千江 まあ…。

幸一、カクテルを作る為に、必死にシェイカーを振っている。

春 ぼく、ぼくうー？何やってるのかなあ？

幸一 何ってカクテル作ってるんだけど。

春 大人のムードってのがあるんだからさ、目の前で髪の毛バサバサいわせてシヤカシヤカやられると不気味で気分出ないのよ。わかる？

幸一 は、はい、分かりました。

春 さ、続き。

千江 え？んーと…私、酔っちゃったみたい…。

春 おっと、それは大変だ。上のホテル、部屋取ってあるんだけど、どお？

千江 いいのかしら？

春 いいも何も…是非、どうぞ。

千江 そう？

春 僕が今まで生きてきたのは、君に出会う為さ。

千江 まあ。

春 さあ、行こうか。

千江 はい。

2人、去っていく

春 カット、OK!!

拍手!!

千江 いやー、照れた、照れた。

春 どう？分かった？

幸一 うん、……まあ、一応。

春 じゃ、次、やってみな。

幸一 ……うん。

再び三人、位置に着く。春がバーテン。

春 お洒落なバーのカウンターにいい女が一人。そこに男が入ってくる。ハイ、スター

ト!!

幸一が歩いてくる。バーテンに。

幸一 牛乳。

春 カット!!

幸一 え?

春 あんた物考えてる? バーなんだからさ、酒頼みなさいよ、酒。

幸一 だって、僕、飲めないし。

春 フリなんだから。いい? こっちきたら、まずカクテルを頼む。

幸一 分かった。

三人、位置に着く。

春 お洒落なバーに女が一人、飲んでいる。そこに男現れる。ヨイイ、スタート!!

幸一、歩いてくる。

幸一　ウーロンハイ

春　洪いわね。……まあ、いいわ。続けて。

幸一　でえ、どうするんだっけ？

春　声かけるきつかけを待つよ。さっきの場合は千江がため息をついたでしょ？
そう
いうスキができるのを待つよ。

幸一　OK！

千江、ため息をつく。

幸一　お一人ですか？

春　そうそう、やれば出来るじゃない。

千江　ええ。

幸一　隣……空いてます？

千江　いいえ。

幸一　あ、そうですか……。

春　カット!! 諦めてどーすんのよ。

幸一　だって、空いてないって。

春　だから、それをどうにかするのが会話力でしょ!!

幸一　ああ、そっか。

春　千江も意地悪しないで素直に答えてあげなさいよ。

千江　はい。

春　じゃ、続けて。

幸一　・・・隣・・・空いてますか？

千江　ええ。

幸一　そこに座ってもいいですか？

千江　どうぞ。

幸一　ありがとうございます。

春、ウーロンハイを出す。

春　お待たせしました。

幸一　あ、どうも。・・・飲みます？

千江　え？

春　聞くな、聞くな。スツと差し出す。

幸一 どうぞ。

千江にウーロンハイを渡す。

千江 ど、どうも。

幸一 もう一つ同じ物を。

春 えー加減にせーよ。居酒屋じゃないんだから、互いにウーロンハイ飲んでどーすんの。

幸一 だって、それしか知らないんだもん。

春 ……いいわよ、ウーロンハイね、かしこまりました。

千江 ……ねえ、私これで「このお酒好きです」と言うわけ？

春 しょーがないでしょ、流れ上そうなってるんだから。続けて、続けて。

千江 どうも、ありがとう。私、ウーロンハイ好きなんです。

幸一 だと思った。

千江 どうして分かったんですか？

幸一 君の瞳を見れば、何だって分かるさ。

千江 キザなセリフね。

幸一 フツそうかい？でもね、それを言わせたのは君のその美しささ。

千江 ごめん。何かすごい腹立ってきた。

春 殺意的なものが芽生えるよね。

幸一 そんな、同じ事やってるのに…。

千江 何か違う。

春 絶対違う。

幸一 そんなこと言わないでさ、一応最後までやってよ、ね？

千江 ……まあ、お兄ちゃんがそう言うならね。

春 んじゃ、千江の「キザなセリフね」ってところから。

三人、位置に着く。

千江 (棒読みで)キザなセリフね。

幸一 フツそうかい？でもね、言わせたのはその美しささ。

千江 (棒読みで)まあ、嬉しい。

春 はい、そして女が一気にウーロンハイを飲む。そして酔う。はい酔った!!

千江 私、酔っちゃったみたい…。

幸一 おっと、それは大変だ。上のホテル、部屋とつてあるけど、どお？

春 顔がイヤらしい。下心はまだ見せない。あくまで紳士で。

幸一 どうですか？

千江 いいのかしら？

幸一 はい、どうぞ。

2人、立ち上がり、行こうとする。

春 そして、そこで最後の殺し文句!!

幸一 ういやつじや。

千江 あゝれゝ

春 いい度胸ね、あんた。ここまで馬鹿にされたの、初めてだわ。

幸一 いや、その、時代劇も掴みたいかなあーって。

春 掴みはもう終わってるでしょ。思いつきで行動しないでくれる？

幸一 ま、ま、決めゼリフはまた考えればいいでしょ？でさ、どう？良かった？ムードあるいい男になってた？

春 何かね、コント見てるみたいだった。

幸一 そんな!!

千江 ここまで男として格好悪いのが根付いてると、もう罪だよね。死刑にするべきだと思う。

春 ま、人それぞれ天命というモノがあるからね。あんたには女に縁がないのよ、き

っぱりと諦めなさい。彼女作ろうなんて野望は……野望って言っより無謀よね。

幸一 そんな事言ったって、自分達だって彼氏ないくせに、僕にかまってる暇があるならいい男の一人でも見つけたら？

笑いがぴたり止まる。ストップモーション春&千江、乾いた笑い。

春 こりや、参ったわね。

千江 お兄ちゃんに一本取られたって感じ。

春&千江、笑いながら幸一に近付く。幸一も少し笑う。

幸一 (笑いつつも)……君たち、目が笑ってないよ？

春 この口が言っつか？ん？この口が。

春、幸一の唇をつかむ。春&千江、乾いた笑い。

奥の部屋へ幸一を連れて行く。

一度ドアを閉めた後、千江がノブの看板をひっくり返す。

いままで「三人部屋」と書かれていたが裏には「拷問部屋」と書かれている。

「うきや」という幸一の叫び声と「ドカ、バキッ」という効果音。

暗転

ナレーター 幸一君の特訓は、この日を境に熾烈を極めた。

こうして姉 春と妹 千江の大いなる愛によって、幸一君は、いい男……までは
いなくても「まあ、いいんじゃない」程度の男に変身したのであった。人、これ
を「スケベ根性」と言う。

千江 お兄ちゃん、手え出して。

幸一 え？

千江 手。

幸一 何？

千江 いいから。

幸一、手を出す。

千江、一枚の紙を渡す。

千江 今日までよく頑張ったから、「褒美」。

幸一 地図が書いてあるだけだよ。

千江 目的地はどこになるの？

幸一 ホテル「インペリアル船橋」

春 この辺りじゃちよつとした高級ホテルよ。

幸一 それで？

千江 このホテルの地下にね、いわゆる一つのお洒落なバーがあるの。

幸一 で？

千江 明日、ホテルの一室を予約してあるの。

幸一 で？

春 鈍いわね!! さゆりちゃん誘って行って来いって言うてんのよ!!

幸一 え!?

千江 千江と春姉がお金出し合ったんだから、成功させないと、「千江ちゃんボンバー」

が炸裂するからね!!

幸一 そんな事、言ったって。

春 自信を持ちなさいよ。あんなだけの厳しい特訓に耐えたんだから大丈夫。

幸一 ……そうかな？

春 とはいえ、さゆりちゃんの方に何か予定が入ったらキャンセルするしかないわ

よね。電話してみた？

幸一 今？

春 今。

幸一 ……うん。

幸一、電話する。

幸一 あ、もしもし？月島さんのお宅ですか？向井という者ですけど、あの、さゆりさんいらつしやいますか？……はい。……あ、さゆりさん？向井です。ええ。お電話するって言いましたでしょう？はい。で、ですね。……あの、明日って空いてますか？ええ……あ、空いてる！？じゃ、じゃあ、ホテル行きませんか！？

春、幸一を殴る。

春 落ち着いて話さない、いいわね！！

幸一 う、うん。

千江 お兄ちゃんって根本的には変わってないんじゃない？

春 それでいいのよ。

千江 え？

幸一 あ、その…まあ、とにかく迎えに行きます。あ、OKですか!? 分かりました。ありがとうございます。じゃあ、十時くらいで、はい、ええ、また明日。

電話を切る、幸一。深くため息。

幸一 OK

3人 やったー!!

3人、大きく万歳。

千江 お兄ちゃん、ガンバよ!!

幸一 おう!!

春 幸一、明日着て行く服、コーディネートしてきてごらん。

幸一 おう!!

幸一、奥の部屋へ。

千江 いやー、人間って成せば成るもんだね。ただ、頑張った結果が人並みっていうのも悲しいもんがあるけど。

春 お父さん達、帰ってきたらびつくりするだろうね。

千江 お兄ちゃんだって、わかんなかったりして。

春 かもね。

千江 誰か好きになると、あーやって努力するもんなの？

春 まあね。

千江 好きな人になってもらう為に？

春 まー、そうなるに越したことはないけど、少なくとも、イヤな印象を与えたくないでしょ？

千江 ふーん。

春 何、あんた人を好きになつた事ないの？

千江 あるけどさ、そこまで考えたことなかったよ。話せたら嬉しいなー程度で。

春 あんた、意外とドライなのね。

千江 変かな？

春 大丈夫、その内、恋愛の苦しさをイヤってくらい味わうから。

千江 そう？

春 くるしいわよ。のたうちまわるからね。ま、そんな時は私も幸一も協力してあ

げるから。

千江

一緒にのたうちまわってくれんの？

春

……それであんたの恋がうまくいくならね。

幸一が、入って来る。普通の格好。

幸一

こんなんでいい？

春

ま、そんなもんでしょ。あ、でも、その上にジャケットは着なさいね。バーに行くんだから。それなりのお洒落はしないとね。

幸一

たださあ。……何かこれって僕らしくないんじゃないかって思うんだ。いつもの僕って言うか、そーゆーの。

春

生意氣言ってんじゃないわよ。

幸一

え？

春

「僕なんか」って言葉使っなくなっていつも言ってるけどもう一つ、それも言っちゃダメな言葉。

幸一

え？

春

（深くため息して）いい？これが私の教えてあげられる最後の事だから耳の穴かっぽじって、よく聞くのよ。

幸一 う、うん。

春 これから自分に対しても、他人に対しても「らしい」「らしくない」って言葉で可能性を狭めるような事言うんじゃないからね。そんなの死んで初めて言える言葉なんだから。生きてるうちは、格好悪いあんたも、格好つけてるあんたも、「あんた」は「あんた」なんだから全ての自分に自信と責任を持ちなさい。

幸一 はい。

春 他人に対しても同じだからね。：：例えば、あんたに彼女が出来たとするでしょ？

幸一 うん。

春 その彼女に悲しい事があつて、あんたの前で泣いたとして絶対に「泣くなんて君らしくないよ」なんて言葉使っちゃダメだからね。

幸一 ……重荷になるから？

春 そう、分かつてんじゃない。「らしくない」なんて言われたら無理矢理にでも泣き止むしか無いっしょ。そしたら、これから先、彼女、あんたの前じゃ泣けなくなっちゃうっしょ。男だったらドーンと受け止めたんなさいよ。

幸一 うん、

春 千江もそうよ。

幸一 え？

春 「らしくない」とかって言葉で逃げるような男に捕まるんじゃないよ。

千江 はい。

幸一 (小声で) …春姉、過去に何かあったのかな？

千江 (小声で) 時々、人生悟った事言うもんね。

春 めわんか言った!?

幸・千 何でもありません。

千江 ね、乾杯しよ。乾杯。

春 よっしゃ!! 今日飲むか!?

幸一 僕は明日に備えてジュースでいいよ。

春 そーね、よし、乾杯しよ!!

三人、テーブルにあるジュースを注いであるコップを手取る。

千江 それでは、無事、人間に為れたお兄ちゃんを祝うと同時に、明日のデートの成功

を祈って…かんぱーい!!

3人 かんぱーい!!

次第に暗転。

ナレーター こうして向井家の夜は更けていく。そして次の日、デート当日。幸一君は家を予定通り出発し、予定通りのデートを実行していた。まあ、それはどでもいい事なのでここではカット。現在、幸一君は問題のお洒落なバーへと、突入するのであった。

お洒落なバー。カウンターがあり、イスが5客ぐらい。

テーブルがあり、そこに春と千江がいる。2人は変装している。

千江 ……お兄ちゃん達、遅いね。

春 どうせ道に迷ってるんじゃないの？

千江 地図渡してあるのに？

春 幸一は時々、予想もつかない事やらから。

千江 その辺、見てこよっか？

春 大丈夫よ。もうじき来るって。

幸一 とさゆりが入ってくる。

幸一 いやー、この地図逆さまに見てましたね。どおりで字が読めないなあって思ったん

ですよ。着きました。どうです？オシヤレでしょう。

さゆり　そうですね。

幸一　カウンターにしましょう。

さゆり　はい。

幸一、イスをさつと引いて、さゆりを座らせる。

幸一　どうぞ。

さゆり　どうも。

幸一　何飲みます？

さゆり　じゃあ、オレンジジュースを。

幸一　あの、お酒は？

さゆり　私、お酒弱いです。

幸一　大丈夫ですよ。

さゆり　でも酔ってしまったら困りますから。

幸一　その時は僕が家まで送りますよ。もちろん酔わなくてもそのつもりですけど。

さゆり　そうですか？

幸一　はい。

さゆり じゃあ……ジンライムを。

幸一 はい。ジンライムを二つ。

さゆり 向井さんもジンライムが好きなんですか？

幸一 え？ええ。まあ、好きです。

さゆり カクテルにお詳しいんですか？

幸一 まあ……それ程でもありませんけど。あの、ここで夕飯とりませんか？

さゆり ええ。

幸一 良かった。

幸一、メニューを取って、さゆりと何を食べるか話し合っ。

千江 お兄ちゃん、なかなか好調な出だしだね。

春 好調すぎて、かえって怖いわ。

千江 お兄ちゃん、「送って行きます」とか言ってたよね。

春 嘘に決まってるでしょ。部屋とってあんのに。

千江 そこまでの勇気がなくて、今日はこのくらいでいいかと思ってたりして。

春 ありうるわね。行け!! 幸一!! 女なんてもんはね、多少なりとも強引な方がいい

のよ。

千江　　そうだよ、行け!! お兄ちゃん!! 強引さは男らしさよ!!

春　　勇気だして行くんだ幸一!! 強引にいったらんかい!! 女なんて「ダメ」とか「イヤ」とか言いながら、心ん中じや「もつとよ、もつと」とか言って「ヨダレ垂らしてるんだから!!」そーゆーもんなのよ、女ちゅーもんは!! いったれ、いったれ!! 「マシたれ、幸一!!」

千江　　.....。

シーン。

春　　はしやぎ過ぎました。

一方、幸一達は。

幸一　　あ、来た来た。

カクテルが来る。

幸一　　乾杯しません？

さゆり いいですけど…何に？

幸一 え？えーと、…今日のこの素敵な夜に。

さゆり は？

幸一 まあ、言うなれば、君の瞳に乾杯ってどこかね。

さゆり はあ…。

千江 っかし、お兄ちゃんの格好のつけ方って、相変わらず、腹立つよね。

春 キヤラクターじゃないから、仕方ないのよ。

幸一 それじゃあ、カンパーイ!!

2人、乾杯する。

さゆり おいしいですね。

幸一 はい。

さゆり それで…いろいろ話したいって言ってませんでした？

幸一 あ、はい。そのですね…さゆりさん兄弟とかっています？

さゆり いえ、一人っ子です。

幸一 あ、そうなんですか？いや、それにしては、素直って言うか、真っ直ぐな性格ですね。

さゆり　そうですか？

幸一　そうですよ。ホラ、普通、一人っ子ってわがままになるとか、自分勝手になるとかって言うじゃないですか。

さゆり　はあ……。

幸一　そうですか、一人っ子なんですか。

さゆり　向井さんのおうちは？

幸一　うちですか？姉が一匹に妹が一匹です。

さゆり　「匹」って……。

幸一　いいんですよ。あんな女共、鬼畜ですから。

千江、「何!!」というようにピンと背筋を伸ばす。

持っていたコップを握りしめて割る春。(2人が同じ動きでもいい)

さゆり　お姉さまだったらキレイとか、妹さんだったらカワイイとかありますでしょ？

幸一　ないないですよ。人の弱みにつけ込んでイビるのが趣味っつーよーな、悪魔ですからね。心が汚いと、顔まで汚くなるっていう見本ですよ。

春と千江、ガタッと立ち上がる。幸一とさゆり、振り返る。

春 (遠くを指差し) 見ろ、きれいな夕日だなあ!!

千江 ええ! 心が洗われる様ですわ!

さゆり 何かしら、あの2人。

幸一 劇団員がセリフが何かの練習してるんじゃないですか?

2人、イスに戻る。

さゆり 妹さんってどんな方なんですか?

幸一 妹ですか? 千江って言うんですけどね。もー家の中でもチヨロチヨロしてるネズミみたいな奴なんですよ。隅っここの似合う人間って言うんですかね、ちんけな奴です

怒る千江。なだめる春。

さゆり お姉さまは?

幸一 お姉さまなんて、そんな言葉当てはまりませんで。名前は春って言うんですけどね、名前だけ聞くとおとなしそうですよ? ところがどっこい、もー癡猛で凶暴で。口は悪いし性格はひねくれてるし、なんちゅうーかね、ウンババですよ。ウンババ。

知りません？ウンババ。

さゆり 知りません。

幸一 「ウンババ、ウンバンバ」って走り回る雪男みたいな生き物なんですよ。最悪でしょ？

怒る春、なだめる千江。

さゆり でもそれは身内だから、いいところに気付かないだけかも知れませんよ。いい所って言うのは離れてみて初めて分かるものですから。

幸一 難しいですね。ないと思いますよ。だから僕、今度、一から教育してやんなきゃって思ってるんです。

春、我慢できずに小物を投げつける。

幸一 痛て。

幸一、後ろを振り向く。2人知らんぷり。

さゆり どうしたんですか？

幸一　いえ、別に。：でね、聞いて下さいよ。姉も妹もね、彼氏がいなんですわ。まいっちゃいますよね。きつと男が寄り付かないんですよ。恐いから。だから僕、心配で心配で。

千江、鞆からパチンコを取り出し、春にも渡す。
2人、パチンコで。

春・千　天誅ー！

と幸一を狙う。飛び上がった痛がる幸一。

さゆり　どうしたんですか？

幸一　いえ、いきなり背中に激痛が走ったもので。

さゆり　大丈夫ですか？

幸一　ええ、一応。

千江＆春、ガタつと立ち上がり、強引に幸一を舞台の端の方へ行く

幸一 え？あの、ちょっと！

さゆり、キョトンとしてその場に立っている。

千江 誰がちんけなネズミですって！

幸一 ゲエ！千江！

グイツと幸一を引っ張って。

春 誰が……！

幸一 うお！ウンババ！

春 「ウンババ、ウンババ！」

春、走り去る。

春 殺すわよ。

幸一 ノリがいいね。

千江 全く、誰がここまでお膳立てしてあげたと思ってるのよ！

春　この口が言うか、この口が。ん!?

春、幸一の口をつねる。

幸一　いや、その……口から出まかせてやつで。

千江　どーゆー出まかせよ。

幸一　じ、冗談だつて！本心ではキレイだなあとかカワイイなあとか思ってるつて。ただほら、僕つてシャイだから、それが上手に表に出ないんだよね。

春　あんた、言いわけは、上手くなつたね。

幸一　それより、何で春姉達がここにいるの？

春　何でつてあんたが心配だからに決まってるでしょ！

千江　何か失敗したらフォローしてあげようと思つてきたのに、今の聞いたんじゃねー。

春　帰ろつか？

2人、帰ろうと

幸一　わー！ごめんなさい！ごめんなさい！いやー、春姉グツと色っぽくなつてきたなあ

大人の女つて奴だよな。千江も……千江もなんつーか、どわーって感じがエーって所ま

で来ちゃつてもう最高だよね！

千江 それ褒めてんの？

幸一 褒めてんの！

春 あんたヨイショも上手くなったわね。

幸一 ヨイショだなんて、本心だつて、本心。だからフォローお願い。

春 どうする？

千江 ま、ここまで来てこのまま帰るつてのもね。

春 ……じゃあ、フォローしてあげるけど、ちゃんとやるのよ。

幸一 ウィッス！

幸一、春、千江、元の場所へ。

さゆり どうしたんですか？

幸一 いえ、別に。トイレの場所を教えてあげたんですよ。

さゆり 料理来てますよ。

幸一 あ、本当だ。じゃ、食べましょうか。

さゆり はい。

幸一 いただきます。

さゆり いただきます。

2人、料理を食べる。

幸一 えーと…どうしよう。

幸一、後ろを見る。2人口元でグッパグッパやっている。

幸一 ？

千江、パンの「ナン」をだす。

幸一 なん。

千江、「蚊」のまねをする。

幸一 か。

千江、「貝」を出す。

幸一
かい。

千江、手で輪を作る。

幸一
わ。

千江、自分の服を指差す。(白い服)

幸一
しろ。

千江、春、大きくうなづき、さゆりに「行け行け」とやる。

幸一
「何か会話しろ」って言ったてなあ。…あの、「趣味は？」

春&千江、ズルッ。

さゆり 読書です。

幸一 読書ですか。

さゆり 平凡ですよ。

幸一 いえ、僕も読書は好きですよ。

千江 ……漫画も読書って言うの？

春 人によつてはね。

さゆり どういったものをお読みになるんですか？

幸一 一般的なものですよ。小説とか、エッセイとか、詩集とか……あとは国語辞典かな
さゆり 辞典？

千江 お兄ちゃん、結構舞い上がってるみたいだね。

春 あのバカ……

さゆり 辞典をお読みになるんですか？

幸一 ええ、案外おもしろいですよ。興味深かったのは力行ですね。ナ行はいまいち良く
なかったな。ああ、そうそう。牽引ってあるでしょ。あれが、泣けるんですよ。

春 誰か止めろ！

さゆり すごいですねー。

春・千 関心するなー。

幸一、さゆり、後を振り向く。春&千江は知らんぷり。

幸一 さゆりさんは、好きな作家とかっているんですか？

さゆり そーですねー。トルストイとか、ドストエフスキーとかですね。

幸一 トル……？ドスト……？……ああ、そうですね。

さゆり 日本の作家では太宰治とか、夏目漱石とかです。

幸一 なるほど、いいですねー。いいですよ、うん。

千江 ……お兄ちゃん、知ってんのかな？

春 絶対知らない。まずったわね。教養面での特訓は全然してないわ。

さゆり 私、特にトルストイの名作が好きなんです。……あら？なんて名前だったかし

ら？私、ど忘れしてしまいました。向井さん知ってます？

幸一 え!?

さゆり 読書好きの人ならたいい読んだ事があるはずなんですけど……。

幸一 も、もちろん知ってますよ。

幸一、後ろを振り返る。

千江 ……あのすぐるような目。わが兄ながら情けないの一言だね。

春 千江、あんた結構、読書家だったよね。

千江 うん。

春 トルストイの名作って何？

千江 いろいろあるけど、多分「戦争と平和」の事言ってるんだと思うよ。どうやってお兄ちゃんに教える？

春 そりゃ、まあ……ジエスチャーしかないんじゃない？

千江 ジエスチャー？

春 協力するから。

千江、機関銃を撃つマイム。春、撃たれるマイム。その後、2人握手。

幸一 ……？……。ああ！あの有名なやつですよ！

さゆり ー「存知ですか？

幸一 ゴーストバスターズ！

春・千 あほー！

さゆり え？……そんな題名だったかしら？

幸一、振り向く。春&千江、首を振る。

幸一 あ、あの、すみません。ちょっと勘違いしたようです。ゴーストバスターズじゃなくて…。

春&千江、銃で撃ち合うマイム。

幸一 ……戦争？

春&千江、大喜び。春&千江、一息ついて、「と」を表す。

幸一 と？

春&千江、握手する。

幸一 握手？

春・千 そのままやないかい！

さゆり ああ、思い出しました。「戦争と平和」です。

幸一 ああ、…あれね。はいはい。

さゆり 向井さんはお読みになりました？

幸一 え？…ええ、もちろんです。

さゆり アンドレイ公爵が良かったですよ。

幸一 …アンドレイ？…ええ。まあ、そうですね。

さゆり 向井さんはどの場面が好きなんですか？

幸一 え!? えーと…ですね…。

幸一、振り向く。

千江が「アンドレイは私ね」と手を挙げて自分を指さす。

幸一 …アンドレイ…は？…を？……が？アンドレイが…。

千江、大きく手を回す

千江 (小声で) 大きな…。

幸一 …大きな…。

千江、胸に手を当てる。

千江（小声で）心を
幸一 心を……。

千江、春に手を差し出す。

千江（小声で）分けてあげて
幸一 取り出して？

千江、首を振る。

千江（小声で）じゃなくて。
幸一 じゃなくて。

千江、自分の胸に手を当てながら春に差し出す。

千江（小声で）分けてあげて。
幸一 かめはめ波？

春、水を飲む。

幸一 誰かが、水を飲んで。
さゆり はい？

春、違う違うと手を振る。

幸一 アンドレイに手を振って。

千江、春を指差し、「置いといて」のマイム。

幸一 は、置いといて。

千江&春、何が何だか分からず、パニックになり、千江は場面の説明をしようと必死になってマイムをし、春は、自分は関係ないんだという事と、水の事もなしにしると、必死に説明のマイムをする。その2人の動きを見てパニックになる幸一。

幸一（いきなり）音楽っていいよね。

春&千江、コケる。

さゆり はい？

春 いきなり何を言い出すんだ、あいつは。

幸一 とりあえず飲みましょう。すみません。チェリーフィズを二つ。いやー、音楽はいいですよ。さゆりさんはどんな音楽を聴くんですか？やっぱり西野カナとかですか？

さゆり いえ、私、あまりそういった曲は。

幸一 じゃあ。

さゆり クラシック関係ですね。モーツァルトが好きです。

幸一 え…。

春 アホが。自分の首しめおって。

千江 クラシックは、私の分野じゃありません。

春 私だってそうよ。

千江 じゃ、どうすんの!?

春 どうする…って。

千江 何とかフォローしないと、嫌われちゃうよ。

春 その方が世の為人の爲って気がしないわけでもないけどね。よし、千江、あの作戦で行くわよ。

千江 え？あれ本当にやるの？

春 フォローしなきゃって言ったのはあんたでしょ！

千江 でも、あれって、もしかしたらお兄ちゃんに殴られるかもしれないでしょ？

春 もしかしたらじゃなくて、殴られなきゃ意味ないじゃない。

千江 でも！

春 大丈夫よ。幸一に殴られたってね、幼稚園生にボールぶつけられるよりは痛くないから。ちゃんと準備してきた？

千江 一応ね。

千江が鞆から、一見やくざ風に見えるアイテムをいくつか取り出す。グラサンなど。(春&千江、コートを着ている)が脱いで、やくざ風の服になる。

春 ようよう、兄ちゃん、見せつけてくれんじゃねえか。

幸一 ん？…(振り向いて)…はい？

千江 「はい」じゃねえんだよ。トッポイ姉ちゃん連れてよお。

春 エー？あんたにやもつたいねえなあ。姉ちゃんどうだい。こんな奴ほっぽって俺と

付き合わないかい？いい夢見さしてやるぜ。イヒヒヒヒ。

千江 春姉、何か慣れてるね。昔やってた？

春 やってるわけないでしょ！

幸一 あ、あの、勘弁してくださいよ。

春 は？

幸一 見逃して下せえ、だんな。

春 ーい。

幸一 もう店でますから。

千江 お兄ちゃん、私達だつて、気付いてないみたいだね。

春 このバカ……。おい、「ちえぞう」「こんな根性のねえ奴あボコボコにしてやろうぜ。

千江 へイ。「はるのじよう」兄貴。

幸一 勘弁して下さいよ。

春 いや、だから、ボコボコにするぞ。「ちえぞう」

千江 へイ。「はるのじよう」兄貴。

幸一 そんな、謝ってるのに。

春 ……よく聞けよ。ボコボコにするぞ。「ちえぞう」

千江 へイ。「はるのじよう」兄貴。

幸一 ……。

春、幸一の胸ぐらつかんで

春 ボコボコにするぞ「ちえぞう」!!

千江 ヘイ。「はるのじょう」兄貴!!

幸一 ……はい?

春・千 アホかー!?

千江 ……どうする?

春 どうするもこうするも、気付くまで、絡みまくるしかないでしょ? さゆりちゃんの
前でいいところ見せなきゃ。とにかく絡んで、絡んで。

千江 うーし。

千江、幸一の前に来る。

千江 おい。

幸一 はい?

千江 お前見てつと、腹立つんだよ。

幸一 はい!!

千江 「はい!?!」じゃないんだよ。「はい!?!」じゃ。

千江、幸一を小突く。

春 ちょっと、あんた、ものすごい絡み方するのね。

千江 だって、本当の事だもん。

春 気持ちとは分かるけどさ、あんまり強気に出たら、幸一が反撃出来ないっしょ!
千江 分かっているって。ほら「はい!?!」じゃないだろ、「すみません」だろ。

幸一 すみません。

千江 「すみません」じゃないんだよ

幸一 はい!?!

千江 「はい!?!」じゃないんだよ、コラ。

千江、幸一を小突きまくる。

春 ちよ、ちよつと、ちよつと。

春、千江を幸一から遠ざける。

春 あんたマジになつてない？

千江 何か、絡むのって気分いいね。

春 加減しなさいって言つたでしょ？

千江 いやー、それなんだけどね。

春 何？

千江 もしここで、お兄ちゃんがうまくいったら、彼女出来るって事でしょう？ 私達にいないのに。

春 ……。

春、しばらく考える。やがて無言で指を。パキ。パキしながら幸一に近付く。

幸一 ……なんですか？

春 それはすつこいム力つくよね。

千江 でしょ？

幸一 分かりました。僕なら、いくら殴られても構いません。ですが、彼女だけは無事に帰してやって下さい。

春 よし、よく言った。覚悟しなさい。

幸一 え!?

千江 ボコボコね、ボコボコ。

春&千江、幸一に近付く。

さゆり 向井さんに手は出させません。おとなしく下がりなさい。

春 何を言ってるんだか、この天然ボケ人間は!

千江 このー天然、天然、天然女!

さゆり「はいっ」という気合いの声と共にテーブルを素手で叩き割る。幸一、春、千江、シーン。さゆり、幸一のそばにくる。

さゆり まだやる気ですか?

春 ……何かメツチャクチャ悔しい。チクショー。

千江 覚えてやがれ!

さゆり 大丈夫ですか?

幸一 え、ええ、まあ……。

春&千江、惨めに後ろに下がる。

幸一 あの、さゆりさん？

さゆり 向井さん。

幸一 は、はい。

さゆり こう言うてはなんですけど、無理はしない方がいいですよ。

幸一 ……はい……。

さゆり よく絡まれたりするんですか？

幸一 ええ、そうですね。そーゆー体質って言っか。

さゆり 危ないですね。…私・空手と合気道習ってるんです。

幸一 そうなんですか!! あ、だから、あんな凄い事も出来るんですね!!

さゆり もしよかったら私が守ってあげましょうか？

幸一 え!?

さゆり また。さっきみたいに絡まれたら。

幸一 い、いいんですか？

さゆり 向井さん見てると、危なっかしくて。誰かそばにいないと。

幸一 はい!!

さゆり 私でよければ。

幸一 はい、お願いします。

さゆり じゃ、これから、私のそばを離れないようにして下さいね？

幸一 あ、僕……強い人って好き……。

さゆり さ、行きましょう。

幸一 はい、これからよろしくお願いします。

さゆり わかりました。家まで送ってあげますね。

幸一 はい。

幸一、さゆりの腕にしがみついて店を出て行く。取り残される春&千江

春・千 やつてられるかー!!

春&千江、服なりサングラスなりを床にたたきつける。

ストップモーション。暗転。

ナレーター 運の良い人はどこにでもいるものです。そして運の悪い人は決まって、運の良い人のそばにいます。2人の行動を、人、「骨折り損のくたびれもうけ」と言

う。さて、めでたくさゆりちゃんのそばにいられる様になった幸一君ではありませんが、恋人というよりはボディーガードという関係である事に、後になって気付いたという。その後、2人が恋人同士になれたのかどうか・・・それはまた、別のお話・・・。

THE END